

姫路市防災マップづくり作成手引書

【目的】

姫路市内で発生が危惧される地震、洪水、津波・高潮等の災害に対応するため、住民の皆さん自らが、自分の住んでいる地域のハザードやセーフティを掘り起こし、情報を共有しておくことは、災害に対する被害を軽減する上で非常に重要です。

その情報共有ツールの一つが「防災マップ」です。このマップは、ブロック塀・急傾斜地・危険物施設・住宅密集地域等のハザードや、避難場所・防災倉庫・消火栓・防火水槽・病院・消防署・警察署等のセーフティなどを、一枚の地図に表現したものです。

地域住民の皆さんが、防災マップづくりの過程で、もしくは、ワークショップを通して、災害が発生した場合や平常時の活動、避難経路の確認などの防災知識取得ができるよう、地域（地区連合自治会）防災マップづくりを作成、配布することを目的とします。

さらに、この地域防災マップの作成に参画した自主防災会（自治会）員である住民の皆さんのが中心となり、作成過程で得た知識・経験を生かし、自分たちの地域（単位自治会）における「防災マップづくり」を進めることで、地域の方々への防災意識の向上とコミュニケーションづくりの促進につなげるものとします。

住民の防災意識を底上げするためには、防災に対する興味や関心を引き出し、我が事として防災を考えてもらえるようにすることが重要



参加・体験型の防災に関する演習
(ワークショップ型防災演習)

【防災マップ作成のメリット】

自主防災活動を進める上で、災害時の防災情報を知る以外にも、地域住民による防災に対する意識を高めるなどさまざまなメリットが考えられます。

マップ作成に携わることで、地域のことをよく知ることができ、また住民の方々の防災意識の向上にもつながります。

- マップ作成の際に、災害発生時の役割分担や避難ルールを明確にできます。
- 完成したマップを配布することで、集めた情報を地域で共有することができます。
- 自主防災組織活動の中心を自主防災マップの作成に置き、定期的に見直し・更新を行うことで、その時点の最新情報を共有でき、どういった活動が必要なのかを再確認できます。

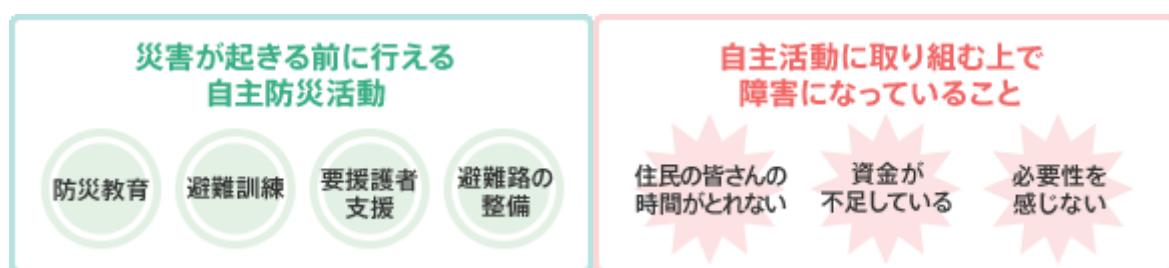
【防災マップの必要性】

阪神淡路大震災の時に生き埋めや閉じこめられて救助された人のうち、専門の救助隊に救助された人はわずか3%たらずで、約92%は家族や友人、隣人に助けられました。

※(社)日本火災学会のアンケートより

阪神淡路大震災以降、各地で『自主防災組織』の活動が推奨され、活発化しております。

万が一の災害時、地域住民同士が協力して助け合い、安全に避難するために町内レベルの狭い地域で、より具体的・効果的な行動をとることが大切となりますが、なかなか実施に着手できない状況もあります。



自主防災組織のスタッフ、町内会のスタッフの皆様が自主防災マップを作成して、地域の皆さんへ配布することによって、自主防災活動の第一歩としても取り組むことができます。

【防災マップについて】

自分の住んでいる地域の様子を知っておくことは、防災活動上、非常に重要なことです。地震で家族が生き埋めになった・・・隣の家から煙が出ている・・・119番通報したいが繋がらない・・・そんな時にすばやい避難活動や救助活動を行うためには、普段から地域住民同士で防災情報を共有して、災害時に個々が適切な行動をとることが重要です。

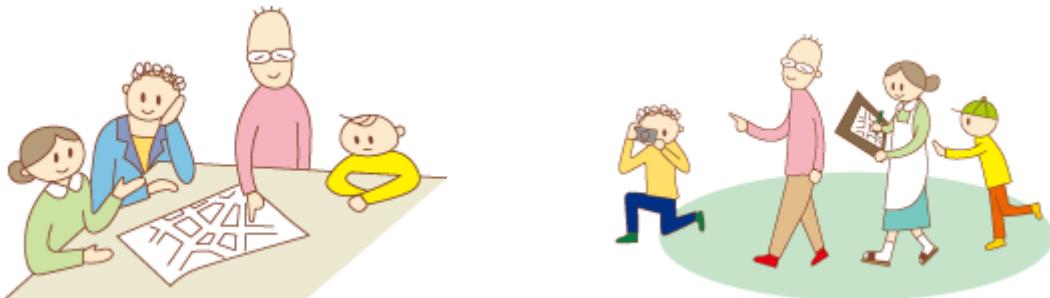
そのような時に必ず必要となるのが「防災マップ」です。防災マップとは自治会などの一定の範囲を一枚の地図に収録して、学校や公園などの避難場所・防災資材置場・消火栓・防火水槽・危険予測場所・行き止まりの道・過去の被災場所などを表現した一枚地図です。

防災マップ作成の流れ

【現在の自然条件を確認】

- 現在の市街地の位置
 - 山と平地の境界線
 - 現在の河川・池沼・水路の位置
- ・昔の自然条件が分かれば地図に書き込んでみる
 - ・参加者の中にお年寄りがいらっしゃる場合は、話を聞いて見る
 - ・昔の地図があればベター
- 昔の市街地はどうなっていたか
 - 昔は河川や沼地だったところが今はどうなっているのか
 - 昔水田だったところが今はどうなっているか
 - 今は宅地化されているが、昔はどのような場所であったのか（谷の埋め立てなど）

【地図づくりの基本準備】



① 地図作成のための準備をしましょう

自主防災マップを作成するにあたって、事前に準備することや細かな点検ポイントなど防災のノウハウが詰まった「自主防災マップ作成マニュアル」や、まち歩きに必要な「地図」の準備を行います。

- ・住宅地図や都市計画図などを利用して、対象とする地域の地図を用意する
- ・テーマに応じて地図の種類や縮尺を選ぶことがポイント。地図を拡大コピーして、つなぎ合わせて使った方がよい場合もある
- ・地図は、グループの数だけ用意する1グループは6名～8名程度がよい

② まち歩きをしましょう

最初に決めるることは作成する地図の範囲決めです。そのためにはまちを歩いて調べることになります。「まち歩き」の範囲が広すぎると、全てを点検することは困難です。そこで1回の「まち歩き」の目安として、1時間程度で歩くことのできる範囲を目安としましょう。

※危険な場所や役立つ箇所など、事前に話し合った点検ポイントを確認し、地図に付箋紙で書き込んだり写真を撮影したりして進めていきます。

まち歩き中は、常に交通安全に注意を払い、通行人の邪魔にならないようにしましょう。

③ 点検ポイントを決めましょう

「避難場所・避難経路」「危険箇所」「役に立つもの」など、参加者がまちを歩きながら、どういった視点で点検をすればよいかを決めておきましょう。

【自主防災マップ案の整理】



地図の中に整理していきましょう。

まちを歩いて集めた情報を地図の中に整理していきましょう。地図を大きな模造紙に貼り、余白部分に撮った写真を貼付けたり、書き込むペンの色を分けることで、分かりやすく整理ができます。

最終的に整理した情報をみなさんに確認した上で、自主防災マップのベースとなる案が完成となります。



一時避難場所、指定避難所、避難経路



狭い道、袋小路、自動販売機、電線、落下物など。



井戸水、プール、災害救助用資材のある場所など。

◇ 地域の「人的・物的防災資源」を書き込みましょう

- ・地域の防災を考える上でプラスにもマイナスにも働く施設や設備などを書き込む
- ・書き込み方は自由。例えば地図記号を記入、付箋やドットシールで表示するなど状況によって使い分ける
- ・以下に示している項目は、使用する地図の縮尺や設定するテーマにより書き込む項目を選択する必要があるので、適宜省略してもよい



- ① 官公署・医療機関等、災害救援にかかわる機関・施設を表示する
 - ・市町村役場（出張所）・消防署・警察署
 - ・学校・幼稚園
 - ・医療機関（病院、医院）
 - ・公民館・自治会館・社会福祉施設
 - ・ヘリポート
 - ・その他の公共施設

② 地域防災において役に立つ施設などを表示する

- ・避難地・避難所
- ・救護所
- ・食料・日用品・薬品・燃料等の販売店
- ・備蓄倉庫、防災倉庫
- ・重機等を持っている企業（事業所）
- ・可搬ポンプ・消防水利（防火水槽、街頭消火器、プール）

③ 転倒・落下・倒壊した時に危険となる施設等を表示する

- ・危険物の貯蔵施設など
- ・ブロック塀、石垣、屋外広告物（看板）、自動販売機など
- ・空き家等老朽建物

④ 地域防災に役立つ人材を表示する

自治会、自主防リーダー、消防署・消防団のOB、医療・看護関係のOB・OG
自治体職員のOB・OG、建設や修理工関係者、民生・児童委員、通訳（外国語・手話）
福祉関係者

⑤ 災害時要援護者のいる世帯の場所を表示する

一人暮らしの高齢者、寝たきりの人、身体障害者、知的障害者・精神障害者、妊娠婦、
乳幼児を抱えた母親、外国人

※個人情報の保護について最大限の配慮が必要

※マップに掲載するもの、してはいけない情報の整理も必要

◇ 作業のまとめ

- ・書き込みが行われた地図を見ながら、皆で次の項目について考えを書き出してみる
- ・書き込みは、ホワイトボードを使ったり、ポストイットに書き出したものを模造紙に貼ったりして、参加者が考えを共有できるような工夫をする

① グループごとに次の項目について書き出す

- ・この地域の特徴は？
 - ・この地域の（防災・災害救援についての）プラス要素は？
 - ・この地域の（防災・災害救援についての）マイナス要素は？
- ※ 1項目ずつポストイットに書き出する
※ 重複があってもかまいません

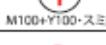
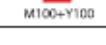
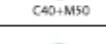
② グループごとに発表し、参加者全員で発見を共有する

- ・まとめ・発表は是非行うようにする
- ・自らの発見を確認し、お互いの発見を共有するためには、まとめ・発表は不可欠

地域皆様に作成いただいたマップ案をベースに、防災マップとして仕上げを行います。最終的に仕上がった防災マップをみんなで確認・調整をした上で自主防災マップの完成となります。

《参考》

地図に掲載する情報の例

 C100	消火栓	 C100	銭湯
 C100	双口消火栓	 新文字C100	消防団詰所
 C100	防火水槽	 M100+Y100	郵便ポスト
 C100	100t貯水槽	 C100+Y100	★地区によって色の濃淡差有 こども会標語板
 C100	ポンプ	 BL100-新文字同色	防災行政無線子局(スピーカー型)
 C100	プール	 BL100	防災行政無線子局(ラジオ型)
 M50+Y100	防災資機材庫	 BL100-M100+Y100	消火器
 C100	消火ボックス	 GS M50+Y100	大災害時協力ガソリンスタンド
 M50+Y100	倉庫の鍵	 M100	交通事故注意地点
 C100	防火水槽の鍵	 X C100	水害注意地点
 M50+Y100	資機材協力店	 Y20-BL40等	避難経路
 C100+Y100-スミ黒	避難所	 C30+Y70	公園・広場
 M100-スミ黒	福祉施設	 C20+Y20	緑地保全地域
 C40+Y70-スミ黒	公衆電話	 M50+Y100	パトロール重点地域
 M100+Y100-スミ黒	非常電話	 M60+Y60+C10	★地区によって色の濃淡差有 駐車場
 C100+Y100-スミ黒	掲示板	 M40+Y50+BL20	違法駐車等追放推進地域
 M100+Y100-スミ黒	歯科	 M70+Y80+C20	がけ崩れ危険箇所
 M100+Y100-スミ黒	病院・医院	 M36+Y45+C18	がけ崩れ危険箇所(板宿のみ)
 M100+Y100-スミ黒	薬局	 C40+M80	花の美しいところ
 M100	食料品	 M50	車の通れない道
 M100	コンビニ	 地 C94H5.884Y96L12+BL14L12	地域連絡所
 M100+Y100	地域連絡所	 C90.2+Y100	こども会標語板
 C40+M50	こども110番	 M50	福祉相談所
 C100	井戸	 H C100	ヘリコプター臨時着陸場